様式第3号

自己評価報告書（最終報告）

報告者	教員養成特別コース ／木下　光二

■平成24年度の目標に対する自己点検・評価

Ⅰ．学長の定める重点目標

Ⅰ－1．科研費申請に向けた計画等

国立大学法人運営費交付金は年々削減され，教員の研究費配分も厳しくなってきており，教員各自が研究のための外部資金を獲得しなければならない状況である。そこで，科研費申請に向けて，あなたが考えているテーマと計画等について示してほしい。

1．目標・計画

23年度までは，基礎研究（c）における2つの研究主題「幼稚園における教育実習生・新任教員の力量形成のためのデータベース開発研究」「Webビデオアーカイブとモバイル機器の連携による教育実習生の省察支援」で，研究を進めている。特に新任教員の力量形成のためのデータベース開発研究は，附属幼稚園との共同研究で実施しているものである。附属幼稚園では，23年度より，文部科学省の教育課程開発研究の研究委託による合同研究も開始されており，今年度は，データベースと教育課程の両面において研究を進めたい。

2．点検・評価

「幼稚園における教育実習生・新任教員の力量形成のためのデータベース開発研究」については，附属幼稚園との連携を図りながら研究を進めた。文部科学省の教育課程開発研究の研究委託もあるので，附属幼稚園に足を運び実証的な研究になるよう努めている。その成果については平成25年2月9日に開催された附属幼稚園研究発表会において全国に発信することが出来たと同時に，文科省への報告書にも記載している。ちなみに附属幼稚園の研究発表会では，県内外から407名の参加があり講評であった。「Webビデオアーカイブとモバイル機器の連携による教育実習生の省察支援」についても院生に配布したモバイル機器の検証を進めながら研究を進めている。今年度は，広く情報を収集するために，11月にシンガポールで開催された情報教育の国際学会にも参加した。

Ⅰ－2．大学院学生定員の充足に向けた取り組み

専攻・コースのこれまでの大学院学生定員の充足状況を踏まえた上で，あなたは定員充足のためにどのような取り組みを行うか，具体的に示してほしい。

1．目標・計画

設立以来，教職大学院全体の協力も得ながら，小学校1種及び2種免許を出している大学の訪問を繰り返している。毎年，訪問する大学はコース全体で約20校である。平成22年度からは，進学可能性の高い大学（都留文科大学，京都女子大学）に継続的に訪問し，進路ガイダンスを実施するようにしている。結果として平成24年度の入学生として，都留文科大学と京都女子大学の学生が1名ずつ入っている。
24年度は11名（予定）の入学者を出し，定員を超える数を確保している。今後も，教職大学院全体としての定員確保につながるよう，取り組みを進める。

2．点検・評価

今年度は，都留文科大学，京都女子大学を前中後期において3回ずつ訪問し，定員確保についての努力を行った。結果として，都留文科大学からは，大学訪問説明会で知り合った3名の学生が，25年3月5日に本学を訪問し，施設の見学や教員養成特別コースや既設大学院の説明を行った。来年度に期待がもてるところである。また，来年度から中学校教員の養成を始めるため徳島大学を訪問し説明会を実施したところ，説明会参加の学生が前期試験を受け，教員養成特別コースにおいて2名，修士課程においても2名の合格者を出している。他県で開催される各種研修会や研究会においても，教職大学院の広報活動を行った。

Ⅱ．分野別

Ⅱ－1．教育・学生生活支援

1．目標・計画

①学生の相談への対応がスムーズに行えるように，emailを活用する。
②講義時間内に限らず，学生の質問や相談にいつでも気軽に応じることができるように努める。
③学生が主体的に授業に参加できるよう，討論，模擬授業を取り入れる。

2．点検・評価

学生の相談については，本コースで設定しているメーリングリストを活用し，学生の実習校における指導案の作成や教材研究に関する検討を実施した。ゼミにおいては，大学院1年生，2年生でのゼミを，できるだけ学生の希望時間に合わせて実施したり，関係性の深めるため，時には，合同でゼミを実施したりできるように勤めた。また，授業や教職大学院でも実習指導においても，15コマを遙かに超える時間を設定し，学生の学びに寄与できるように努めた。

Ⅱ－2．研究

1．目標・計画

①学校教育におけるカリキュラム開発や授業開発に関する研究を積極的に行う。
②教育実践力の向上をめざす学生たちのための評価のあり方を検討する。
③小学校教育の授業理論と実践に関する研究を進め，学会等に参加する。
④幼稚園と小学校の合同活動や連携カリキュラムを開発するための研究を行う。
⑤映像教材（デジタルコンテンツ）を活用した教師教育の可能性を検討する。

2．点検・評価

大学においては，学部，教職大学院ともに講義や模擬授業を録画し，学生の具体的な授業実践から力量形成が図れるように努めた。得られた分析結果やデータをもとに構築される理論的な面は，教職大学院教員養成特別コースの新しいカリキュラムに寄与できるものである。幼稚園と小学校を連動させるカリキュラム開発については，附属幼稚園と協働して開発を実施している。その成果については，前述した通り，平成25年2月9日に開催された附属幼稚園研究発表会において全国に発信することが出来たと同時に，文科省への報告書にも記載している。

Ⅱ－3．大学運営

1．目標・計画

部会議，専攻会議等での運営に参画し，その任務内容を推進する。

2．点検・評価

教員養成特別コース及び学校教育実践コースのコース長も2年目となり，コース経営や運営に努力を重ねた。

Ⅱ－4．附属学校・社会との連携，国際交流等

1．目標・計画

①附属校園の研究活動に積極的に参画し，日常の教育活動から学ぶとともに，研究授業や研究大会に積極的に参加する。
②教育研修，教育事業の企画・運営を進んで行う。
③鳴門市の小学校を中心とした教育支援活動を積極的に行う。

2．点検・評価

前述もしているが，附属幼稚園とは文部科学省委嘱のカリキュラム開発研究を一緒に行っており，連携を進めている。本年度は研究運営委員会の委員長としての役割も努めた。また，本年度は附属幼稚園の外部評価委員会の委員長も勤め，その役割を果たした。附属小学校とは，接続のためのカリキュラム開発はもとより生活科の指導助言を日常的に行っている。その成果は，平成25年2月9日に開催された附属小学校の研究発表会において，授業協力者として附属小学校の生活科教育について発表した。附属鳴門市内の小学校及び中学校とも，実習や研究面での連携を進めた。県内外の研修会や研究会に招聘される機会も増え，社会的貢献に努めた。

Ⅲ．本学への総合的貢献（特記事項）

教員養成特別コース及び学校教育実践コースのコース長も2年目となり，コース経営や運営に努力を重ねた。また，研究面では，全国的な研修会や研究会の助言者や講師などの社会的貢献に努め，本学への総合的貢献に寄与できたと考える。